令和５年度　徳島市不動中学校総括評価表

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
		評価指標	評価指標の達成度	総合評定		
１豊かな心を育む人権教育の推進	①目的意識・自尊感情を高める教育活動の推進 ②生徒理解と相談体制の充実 ③一人一人が輝く人権教育の推進	生徒アンケートにおいて ①-1「学校生活は楽しい」85%以上 ①-2「夢や目標を持って学校生活を送っている」80%以上 ②「困ったときに相談できる先生がいる」80%以上 ③「いじめや差別がなく周りの友だちを思いやっている」85%以上	①-1　７５%で目標を達成することができなかった。（昨年度８４%） ①-2　６６%で目標を達成することができなかった。（昨年度８０%） ②　８４%で目標を達成することができた。（昨年度７９%） ③　８３%で目標を達成することができなかった。（昨年度８７%）	（評定） C （所見） 昨年度に比べて夢や目標を持ち充実した学校生活が送れていると回答した生徒がやや減少したが，進路について学ぶ機会が増えたことにより，自らの将来をより深く考え意識が高まってきている生徒が増えている。また，教育相談体制を整備したことにより教職員と生徒の信頼関係は深まってきている。	・教職員と生徒が混合した小グループで，進路や将来の夢について話し合う機会を設けてほしい。話し合うことが将来に向けた明るい展望を持つきっかけになることを願う。 ・これまで培ってきた人権教育について振り返り，人権教育を中心にした本校の不易の部分について継続した教育活動を推進してほしい。	・現在の自分に対して自信を持ち、将来への期待が持てるようにするため，継続してスクールワイドＰＢＳに取り組むとともにキャリア教育をより一層充実させる。また，生徒が主体的に活動する場を増やし「できる」「できた」を実感できる教育活動をより一層充実させ，生徒の自尊感情や自己肯定感をさらに高めていく。 ・スクールカウンセラーを始め，様々な関係機関と連携して相談体制を確立するとともに，日頃から，全教職員が積極的に生徒と関わり，生徒理解に努めていく。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1学校行事等で，生徒が主体的に活動する場を増やし「できる」「できた」を実感することができる機会をつくる。 ①-2地域でのキャリア教育と，学年に応じた進路学習に取り組む。 ②教職員が積極的に生徒と関わり，関係機関と連携して教育相談体制を整える。 ③人権主事を中心に，生徒主体の人権新聞の発行や，全校人権学習を推進する。	①　アンケート結果から９２%の生徒が学校行事は充実していると回答しており，活動方法を工夫して生徒が活躍できる機会を設定することができた。 ①-2　地域での職場体験や職場見学や，講師を招いたマナー講習等を実施した。その結果将来の進路について学ぶ機会があると９２%の生徒が回答した。 ②　スクールカウンセラーや状況に応じてケースワーカー，巡回相談員等と連携して，教育相談体制の強化に努めた。 ③　人権委員会が中心となって人権新聞を発行し，全校学習では自分の思いや考えを伝える機会を増やした。			
		評価指標	評価指標の達成度	総合評定		
２確かな学力の育成	①「わかる授業」の実践 ②基礎的・基本的な知識・技能の定着と家庭学習の定着	生徒アンケートにおいて ①「関心や意欲，目標を持って授業に参加している」80%以上 ②-1「得意な教科がある」「苦手教科の克服に取り組んでいる」80%以 ②-2「家庭学習は大切である」「家庭学習に取り組んでいる」80%以上	①　６６%で目標を達成することができなかった。（昨年度８０%） ②-1　８４%で目標を達成することができた。（昨年度７５%） ②-2　８３%で目標を達成することができた。（昨年度７５%）	（評定） B （所見） 生徒自ら家庭学習に取り組むようにすることが課題となっていたが，個に応じた指導を粘り強く継続して行ったため，家庭学習の重要性を生徒が理解し，自ら家庭学習に取り組もうとする生徒が増加してきている。	・学校では，担任を中心として教職員が生徒の学力向上のために熱心に取り組んでくれている。しかし，家庭におけるSNSやネットゲームの使用時間が増加していることが，生徒の生活習慣の乱れや学習時間の減少を引き起こしている。生活習慣の改善や家庭での学習時間を確保するためにも，保護者に協力を呼びかけ家庭生活を改善していく必要がある。	・学力向上検討委員会を定期的に実施し，本校の課題をふまえて見直し改善を行い，教職員全体で共有し実践していく。 ・教科や学年，校種の枠を超えた授業研修を継続して行うとともに，研修方法を工夫して積極的な授業研修を行う。また，ＩＣＴ機器を積極的かつ有効的に活用する。 ・家庭学習を充実させるために，家庭学習の取り組み方について具体的な方法を示したり，個に応じた手立てを講じたりして家庭学習の定着を図る。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①めあての提示し，振り返りの場面を設定するとともに一人一台端末の効果的な活用を図る。 ②-1「朝の学習の時間」を活用し，基礎学力の確実な定着を目指す。 ②-2「家庭学習の手引き」等を活用し，家庭学習の充実が図れるような方法を個に応じて提示する。	①　授業研究会を実施し，授業の中で振り返りの場面を設定する重要性を共通理解した。また，授業内容に応じてＩＣＴ機器を積極的に活用した。 ②-1　教科ごとに，授業の中で内容の反復練習を行い，基礎学力の定着を図った。 ②-2　家庭学習の重要性や方法について生徒に示すとともに，毎朝，家庭学習の状況について確認を継続して行った。			
		評価指標	評価指標の達成度	総合評定		
３家庭・地域との連携	①積極的な情報発信 ②地域の人材と教育力を活用した教育活動の充実	保護者アンケートにおいて ①「ホームページや学年だより，家庭連絡等を通じて学校の様子がよくわかる」85%以上 ②「保護者と学校，地域の連携や協力体制が進んでいる」85%以上	①　９１%で目標を達成することができた。（昨年度８６%） ②　「保護者との連携」９１%（昨年度８６%），「地域との連携」１００%（昨年度１００%）で目標を達成することができた。	（評定） A （所見） 昨年度に引き続き，家庭との連絡を密にとり生徒の様子を共有することにより保護者との連携が強化できた。また，学校ホームページによる教育活動や地域の様子を情報発信し，開かれた学校づくりに努めた。	・学校ホームページを毎日更新してくれていることにより，学校の様子がよく分かるようになった。これからもぜひ続けていってほしい。	・保護者・地域への情報発信の一つとして引き続きホームページの更新回数を増やし，内容の充実を図る。また，連絡メールについても情報発信ツールとして積極的に活用する。 ・保護者や地域住民が教育活動に参加できる機会を設け，連携体制の強化を図る。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①ホームページの更新回数を増やしたり，学年便り等をメール配信したりして教育活動の様子を積極的に発信する。 ②不動学園や保護者，地域の方々と連携した取組を推進するとともに，地域行事等に積極的に参加する。	①　ホームページは毎日更新し，教育活動の様子を積極的に発信した。また，まちこみメールを使用し学年便りや保健だより等を定期的に配信した。 ②　地域行事に全教員が参加し一緒に活動する中で，保護者や地域の方と願いや思いを知り，より一層連携を強化することに努めた。			
		評価指標	評価指標の達成度	総合評定		
４教職員のワークライフバランス確立	①業務内容の精選と，教職員の意識改革 ②保護者や地域の理解と協力を得る	教職員アンケートにおいて ①「ワークライフバランスを保ち，やりがいを持って働くことができた」85%以上 ②「働き方の改善に対する保護者や地域の理解がすすんでいる」75%以上	①　８８%で，目標を達成することができた。（昨年度１００%） ②　５８%で目標を達成することができなかった。（昨年度４６%）	（評定） B （所見） 保護者・地域への「働き方の改善」について様々な方法で広報してきたことが「保護者・地域から理解を得ている」と教職員の実感として高まってきており，このことが働きやすい職場環境の推進になっている。	・働き方改革については，進んできていると思うが，地域行事については学園の教職員の協力が必要である。校務の精選をし，積極的に休暇を取得するようにしてほしい。	・「教職員の働き方」についてホームページで発信したり，PTA役員会等で説明したりして機会を捉えて保護者・地域への広報を行う。 ・保護者アンケートの結果を教職員へ周知するとともに，校務分掌に偏りがないよう見直し改善を行うとともに，研修の機会を積極的に設け，自己研鑽に努めるようにする。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1研修の機会や自己研鑽の時間の確保について啓発する。 ①-2定期的に健康チェックを実施し，カウンセリングの機会を確保して教職員のメンタルヘルスケアを行う。 ②ホームページ等で，保護者や地域へ積極的に情報を発信する。	①-1　研修会の開催について回覧や職員会で周知し，必要に応じて全教職員で研修に取り組む等，教職員の研修の機会を確保するようにした。 ①-2　２ヶ月に１回健康チェックを実施し，必要に応じて面談を行う等メンタルヘルスケアを推進し，アンケートでは働きやすい職場であると回答した教職員は１００%であった。 ②　活動の様子や働き方改革について，ホームページで積極的に発信した。			